

□議員名：松尾数則

1 6次産業の取組みについて

論点	1次産業、特に農業の現状をどのように把握しているかを聞く。
回答	大変厳しい状況です。農業従事者の平均年齢は69.1歳となっている。その中で、耕作面積は減少し、耕作放棄地は増加している。このような状況の中、市は、令和元年度から新規就農者に対する市独自の補助事業、新規就農者支援事業を創設し、令和2年度からは認定農業者に対して農業用の機会、または施設等の整備に必要な経費を補助する担い手支援事業を創設した。今後も1次産業の維持、拡充に努める。

論点	農業は、水源の涵養、洪水の防止等多面的な機能により山陽小野田市民の暮らしを守ってきたと思うが、市の考えを聞く。
回答	農業は国土保全、安心安全な食料の供給他、多面的な機能があり、その機能を維持するためには、やはり、耕作放棄地を解消し、農地を保全していくということが第一と考えている。

論点	山陽小野田市は6次産業にどのように関わっていくのか。
回答	本市に6次産業を制度化、事業化する動きは現在ない。個人の農家の方が開発、販売をしているのが実態である。来年度に向けて、専門家、関係機関と協議を進めていく。

論点	6次産業と地域の関わりをどのように捉えているのか。
回答	地域の農産物を活用した6次産業化の取組について、個々の取組から地域全体の取組に拡充、発展させることは、新たな地域の特産品の創出になり、地域の活性化につながると考えている。また、そのような取組は、農業を活性化させる活動の一つと考えている。そのために、市や地域、関係機関が連携し、6次産業化に取り組むことは有効な手段と考えている。

論点	山陽小野田市において6次産業化が進展していない理由はなぜか。
回答	特に農業は作ってそのままを市場に出すというような流れが割と固定していて、農・商・工が連携していなかったことが6次産業化が進まな

	かった原因と思っている。
--	--------------

論点	山陽小野田市は6次産業の今後についてどのように考えているのか聞く。
回答	1次産業は、いろんな厳しい状況である。その中で知恵を出し、解決策の一つとして、6次産業化があると思う。先行事例もあるので、しっかり研究をして、本市に合った形の6次産業を目指したいと考えている。

2 厚狭駅南部地区まちづくり計画について

論点	入場券を買わないと反対側に出られない現在の厚狭駅の構内道路環境を解決する手段を聞く。
回答	厚狭駅南北の一体性のあるまちづくりには駅構内通路の有効利用は必要であると考えている。駅構内通路の有効利用について協議をしているが、JRからは、無人駅が多くあり、入場券を無料にすることは防犯上の観点から難しい。が、今後も解決策について検討していきたい。

論点	新幹線厚狭駅に「こだま」しか止まらない状況を解決する手段はあるか。
回答	厚狭駅を拠点に美祢線を活用ということで、利用促進協議会会長の美祢市長が、広島支社に「ひかり」、または「さくら」が停車するように要望書を持って行っている。

論点	山陽小野田市の優位点は、新幹線の停まる駅そして大学のあるまちと思うが、新幹線厚狭駅に大学があることを示す、モニュメントが必要ではないか。
回答	山口東京理科大学を表すものが駅周辺にないということで、モニュメントは難しいが、厚狭駅の構内の中に何らかの形のものは、大学と協議していきたい。

3 協創によるまちづくりについて

論点	協創によるまちづくりは、内容が分かりづらく、理解しづらい。市民への周知は大丈夫か。
----	---

回答	まずは本指針が多くの方々と共感・共有されるよう広く周知する必要があると考える。どのような手法で行うかは現在検討中ではあるが、理念や考え方をただ伝えるだけではなく、実例を交えるワークショップ形式にするなど工夫をし、多くの方々の理解が進むよう努めたい。
----	--

論点	協創指針にSDGsの思想が見えないが理由、考えを聞きたい。
回答	協創指針にダイレクトに落とし込むことは難しかったというのが実情である。だから、そのSDGsについての対応については、今、中期基本計画の中でどのように表現していくかというのは庁内で検討していく。